

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成31年4月～令和6年3月（5年）

1. 計画期間終了時点の中心市街地の概況

認定基本計画に基づき、平成31年4月から、『誰もが輝き、「真の豊かさ、あずましさ」を実感できる街 ―黒石ならではの魅力を磨くまちづくり―』をコンセプトに、「新たな拠点の創出により価値を高めるまちづくり」、「こみせとともに人と人とが共鳴するまちづくり」、「誰もが安心して集い、憩うあずましの空間のあるまちづくり」の三つの基本方針を掲げ、各種事業に取り組んでいる。

計画最終年度の令和5年度は、新たな拠点施設整備として、中心市街地の旧大型商業施設（旧大黒デパート）跡地に令和4年12月に工事着工した「（仮称）市民サービス施設」の工事を継続し令和5年度末時点で全体の76%が完了し、令和6年度内のオープンを予定している。

令和4年7月1日にオープンした「黒石市立図書館」では、令和5年度末時点での年間入館者数が55,510人となり、開館以降順調に利用者が増えている。

また、「街なみ環境整備事業（景観の修復）」及び「伝統的建造物群基盤強化事業」等を継続して実施し、街中で実施される主要なイベントについても、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に感染症法上の5類に移行したこともあり、4年ぶりに全ての主要なイベントが開催された。

認定基本計画に掲載した事業による効果は、新規大型ハード事業が完了後に現れることを想定しており、最終年度終了時点においても目立った変化は見られないが、目標値の一つである「中心市街地内への新規出店数（令和元年度から令和5年度までの5年間の合計数15件）」は計画期間終了時点で31件となり、当該目標値を超える成果を得ることができており、中心市街地の賑わい創出と交流人口増加を推進するための下地が整った。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、集客を図るイベントの開催を中止したことや、コロナ禍を経て人の行動が変容したこともあり、指標としていた「主要イベント入込数」、「歩行者通行量」の二つについては目標値を達成することが出来なかった。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（1）居住人口

（基準日：毎年度12月31日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）
人口	2,120人	2,066人	2,000人	1,960人	1,948人	1,900人
人口増減数	△56人	△54人	△66人	△40人	△12人	△48人
自然増減数	△32人	△23人	△31人	△34人	△27人	△30人
社会増減数	△24人	△31人	△35人	△6人	15人	△18人
転入者数	91人	110人	71人	102人	96人	85人

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
中心市街地 商業地 (市ノ町)	20, 200	20, 100	20, 000	19, 900	19, 800	19, 800
中心市街地 の近接商業 地 (山形町)	17, 900	17, 700	17, 500	17, 300	17, 100	16, 900

2. 計画した事業等は予定通り進捗・完了したか。また、中心市街地は活性化したか。（個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2. における選択肢の理由）

計画していた事業は概ね予定通りに進捗・完了したといえる。

一方で、集客を伴う主要イベントについては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、規模を縮小しての開催や開催中止を余儀なくされるケースもあり、通常開催に戻ったあともイベント入込数は従来の水準に戻っていない。

また、大型ハード事業である「市民サービス施設整備事業」については、「（仮称）市民サービス施設」が資材高騰や物価高騰の影響などによる工期延長の影響で完成が令和6年度以降にずれ込んだこともあり、当該事業の効果としてはまだ現れていない。

ただし、「中心市街地内への新規出店数（令和元年度から令和5年度までの5年間の合計数15件）」は計画期間終了時点で31件となり、当該目標値を超える成果を得ることができており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも中心市街地の活性化については「計画策定時と変化なし」と考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

本計画は令和5年度で最終年度を迎え、目標達成のため「ホテル逢春の整備」「前町野添線の電線類の地中化」及び「道路の美装化」「市立図書館の整備」などのハード整備事業とソフト事業に取り組んだ。令和4年7月にオープンした市立図書館の入館者数は55,510人（令和6年3月31日時点）、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け宿泊者が減少したホテル逢春の宿泊需要は令和5年下半期から回復し、国や自治体の旅行支援がない時期でも前年度を上回る宿泊者数を確保している。

3つの目標指標のうち2つが新型コロナウイルス感染拡大の影響により基準値に達しなかったものの「中心市街地への新規出店者数」が目標値を達成できたこと、商店街組合等からは「新型コロナウイルス感染症が感染症分類5類に移行し、まちなかで長い時間過ごしてもらえるイベントを企画している」「夜間の飲食店街の賑わいが回復しつつあり夜市などのイベントの集客が期待できる」「（仮

称) 市民サービス施設の開業をビジネスチャンスと捉えている方が多く、空き店舗への出店が増え他にも出店希望者がいる」「個店の業績が回復しつつある」といった声もいただいております、令和6年10月オープン予定の(仮称)市民サービス施設がまちなかの活性化に寄与する期待の表れと捉えられ、一定の評価ができる。

黒石市が令和6年2～3月に実施した市民アンケートには「(活性化状況は)計画策定時と変わらない」「わからない」との回答が75%あった。現在、商店街組織をはじめNPO法人、個人など様々な方がまちなかの賑わい向上を目指し連携してイベント等に取り組んでいる。人口減少により担い手の数は減少しているが、黒石は多様な世代、出身地、業種の人々が連携し活動しているため、これらの状況を改善することが可能である。

今後、(仮称)市民サービス施設の活用、商店街、観光施設、文化財等への回遊性、黒石市全体の交通の利便性が高まるような実施事業を官民一体で検討し、連携したまちづくりが継続できるよう協議会としても尽力していきたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

黒石市中心市街地活性化に関する市民アンケート

調査日：令和6年2月10日(金)～令和6年3月8日(金)

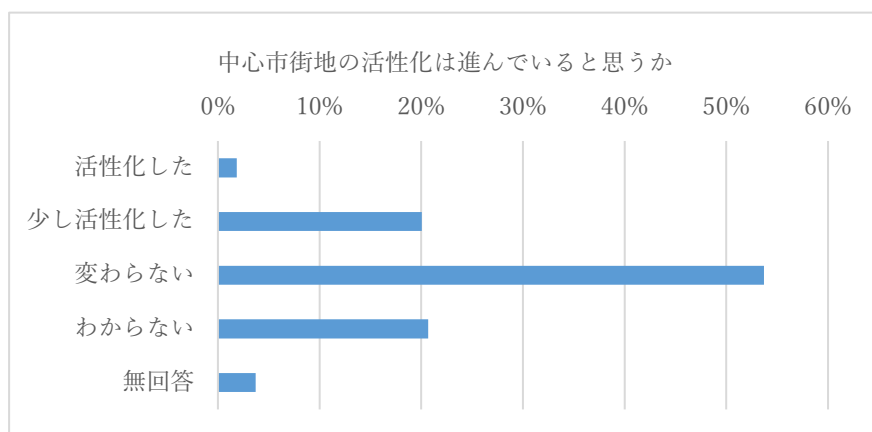
調査方法：郵送による配布、回答は郵送及びWEB

調査対象：令和6年1月1日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の

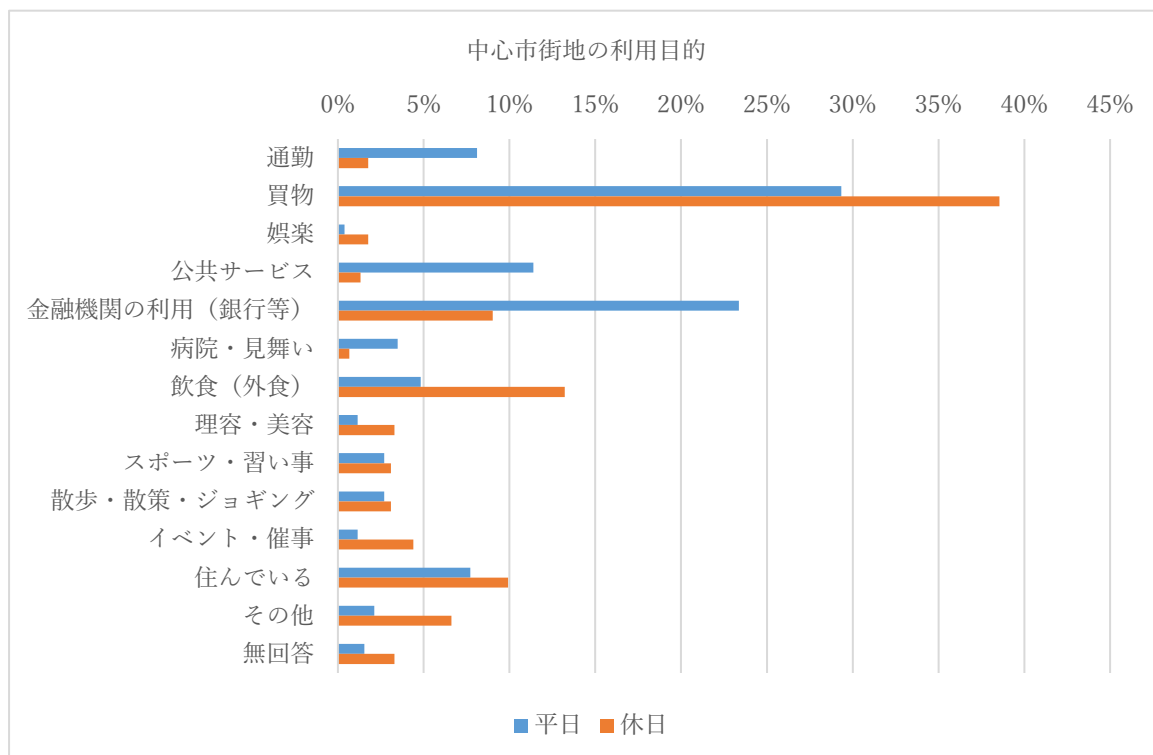
黒石市民1,000名

有効回答数：324名

計画期間前後で、「中心市街地の活性化は進んでいると思うか。」という問いに対し、全回答数の54%が「計画策定時と変わらない」と回答した。



また、中心市街地の利用目的としては、平日・休日とも買物を挙げている割合が高く、休日は飲食（外食）で利用する割合が平日に比べて増えていることから、中心市街地を日常的に利用していることがわかる。



6. 今後の取組

中心市街地活性化に関する市民アンケートの結果では、「活性化が進んでいるか」という問いに対して大半は「変わらない」と回答しているものの、今後のまちづくりに対して市民の方からは「子どもが遊べるような施設や、子育てしやすい街になってほしい」「一方通行が多くて不便」などの意見が挙げられている。

今後は、計画の成果や市民アンケートで寄せられた意見を活かしながら、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組んでいく。

具体的には、計画に記載した各事業を継続するほか、計画期間終了後に完成する「（仮称）市民サービス施設」による拠点の整備や、街中で実施される主要イベント等により、歩行者通行量、イベント入込数の増加を図っていくとともに、中心市街地への新規出店を促し空き店舗等の解消に努めていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ効果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から 目標値まで の幅の 8 割 ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
魅力と活力 ある商業環 境づくり	新規出店数 (件)	10 件 (H25～29 の合計値)	15 件 (R1～R5 の合計値)	14 件	31 件	R6. 3	A
街なかのに ぎわい創出	主要イベン ト入込数	169, 764 人 (H29)	183, 500 人 (R5)	180, 753 人	87, 857 人	R6. 3	c
街なかのに ぎわい創出	歩行者通行 量 (人/日) (平日・休 日の計)	3, 974 人 (H29)	4, 300 人 (R5)	4, 235 人	2, 786 人	R5. 9	c

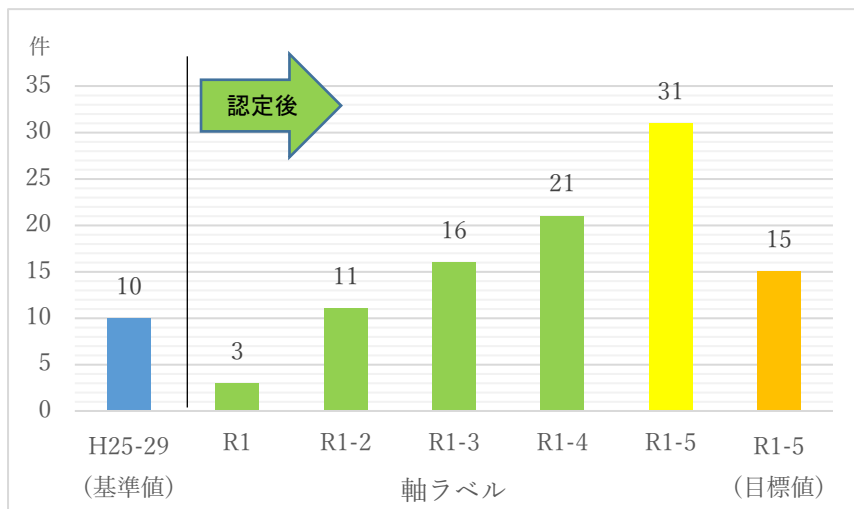
<達成状況の分類>

- A 目標達成 (関連する事業等は概ね予定通り進捗・完了)
 - a 目標達成 (関連する事業等は予定通り進捗・完了しなかった)
- B1 基準値から目標値までの幅の 8 割ラインを超えている
 - (関連する事業等は概ね予定通り進捗・完了)
- b1 基準値から目標値までの幅の 8 割ラインを超えている
 - (関連する事業等は予定通り進捗・完了しなかった)
- B2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの 8 割ラインには及ばない
 - (関連する事業等は概ね予定通り進捗・完了)
- b2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの 8 割ラインには及ばない
 - (関連する事業等は予定通り進捗・完了しなかった)
- C 基準値に及ばない (関連する事業等は概ね予定通り進捗・完了)
 - c 基準値に及ばない (関連する事業等は予定通り進捗・完了しなかった)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

＜新規出店数（件）＞ ※目標設定の考え方 認定基本計画 P74～P75 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H25～H29	10
合計値	(基準年値)
R1	3
R1～2	11
R1～3	16
R1～4	21
R1～5	31
R1～R5	15
合計値	(目標値)

※調査方法：黒石市中心商店街空き店舗対策事業補助金の交付決定件数

中心市街地複合宿泊施設整備事業

新たな活性化事業等による効果

※調査月：令和6年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：中心市街地内での新規出店

〈分析内容〉

新規出店数（件）の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり実施し、10件が新規出店した。

「中心商店街空き店舗対策事業」では、令和5年度の新規出店（交付決定）2件となり、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れた。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 中心商店街空き店舗対策事業（黒石市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和5年度]
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用して出店する事業者等に対し、店舗改修費等の補助金を交付するほか、出店後の経営状況等のフォローアップを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業及び「創業・起業支援事業」による新規出店数の目標値は、年2

	件の新規出店及び令和元年度から令和５年度までの総新規出店数 10 件を見込んでいる。 【最新値】 令和５年度は２件の新規出店（交付決定）があり、令和元年度から令和５年度までの総新規出店数（交付決定）が 10 件となり、目標値（５年間で 10 件）を達成した。
達成した（出来なかった）理由	当事業及び「創業・起業支援事業」では、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れたものと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	令和５年度は２件の新規出店（交付決定）があり、令和元年度から令和５年度までの総新規出店数（交付決定）が 10 件となり、目標値（５年間で 10 件）を達成した。
今後の事業について	「創業・起業支援事業」と併せて継続実施することで新規出店を促し、空き店舗の解消、商店街のにぎわい創出及び活性化につなげる。

②. 創業・起業支援事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和５年度〕
事業概要	相談ルームの開設やセミナーの開催などにより、創業・起業希望者への支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」による新規出店数の目標値は、年 2 件の新規出店及び令和元年度から令和５年度までの累計新規出店数 10 件を見込んでいる。 【最新値】 令和５年度は、創業セミナーを 5 回開催し、相談ルームを 24 回開催したほか、県内の創業・起業支援情報を周知した。 また、令和元年度から令和５年度までの新規出店数は 10 件となり、目標値を達成している。
達成した（出来なかった）理由	当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」では、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れたものと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	創業相談ルームの利用者や創業セミナー受講者の中から 49 人（うち市内 37 人）が新規創業しており、事業の効果が表れた。

事業の今後について	「中心商店街空き店舗対策事業」と併せて創業・起業者をフォローアップし、事業の安定と発展を下支えするためにも、継続実施していく。
-----------	---

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】 [認定基本計画：令和元年度～令和５年度]
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による新規出店数の目標値は、中心市街地複合宿泊施設整備の１件である。また、中心市街地複合宿泊施設整備後の歩行者通行量が令和５年度において１４０人／日の増加を見込んでいる。 【最新値】 当事業は、令和２年３月に補助事業が完了し、令和２年４月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、令和２年５月にプレオープン、令和２年６月からの本格オープンとなった。
達成した（出来なかった）理由	当事業は新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、概ね計画通りに完成しオープンしている。
計画終了後の状況及び事業効果	施設は、市や商工会議所の事業に活用されているほか、周辺への新規出店も見られており、施設が整備されたことの事業効果が表れている。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞在時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。

④. 弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業（不動産団体・金融機関・弘前圏域定住自立圏構成市町村・黒石市）

事業実施期間	平成３０年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和５年度]
事業概要	弘前圏域で「空き家・空き地バンク」を運営することで中心市街地内においても空き家・空き地の利活用の促進を図り、活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」等の相乗効果による新規出店数の目標値は、令和元年度から令和５年度までの総新規出店数４件を見込んで

	いる。 【最新値】 5年間の累計で、弘前圏域空き家・空き地バンクへ空き地10件、空き家12件が物件登録され、うち空き地5件、空き家5件の成約があった。
達成した（出来なかった）理由	登録件数を増やすために黒石りんごまつりでのPRポスターの掲示や市広報への掲載等により周知を行った。市内不動産業者に所有物件の積極的な登録について依頼、市内店舗でのPRポスターの掲示、全国版空き家バンクに参画するなど利用促進に努めたことが要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	利活用が進んでいるものの、バンク制度の周知が十分とは言えず登録件数は少ない。
事業の今後について	バンク制度の更なる周知で、市内の空き家・空き地の登録をさらに促す。

●今後の対策

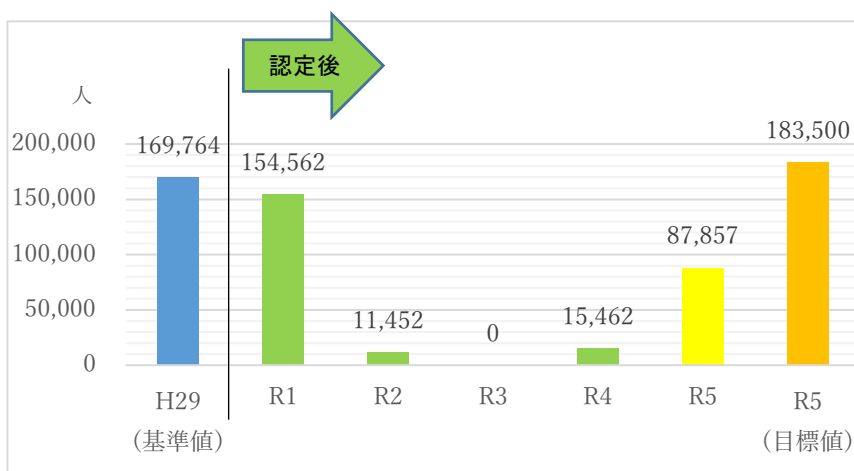
「中心市街地空き店舗対策事業」や「創業・起業支援事業」等の相乗効果により、令和元年度から令和5年度までの新規出店数は31件となり、目標を達成することができた。

今後も、空き店舗に新規出店を希望する小売業者等に対して、当該事業による補助制度の活用と周知を図るほか、「起業・創業支援事業」により起業相談や経営相談等を一体的に進め、より一層の活性化につなげる。

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<主要イベント入込数> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P76～P79 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H29	169,764 (基準年値)
R1	154,562
R2	11,452
R3	0
R4	15,462
R5	87,857
R5	183,500 (目標値)

※調査方法：中心市街地内での主要イベント来場者数を集計

※調査月：令和6年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：黒石よされ、黒石ねぷたまつり、黒石こみせまつり、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ

〈分析内容〉

主要イベント入込数の増加に向けた各事業については、令和5年度は各イベントとも通常開催されたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で従来の水準まで回復していない。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 街なかイベント支援事業（黒石市）

事業実施期間	昭和61年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和5年度]
事業概要	「黒石よされ、黒石ねぷたまつり、黒石こみせまつり、黒石りんごまつり」等の主催者に対し、その費用の一部を補助するほか、人的支援等を行い、イベント内容を充実させ、にぎわいの創出と交流人口の拡大に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、基準値169,764人の10%を事業効果として、令和5年度において16,976人の入込増を見込んでいる。 【最新値】 令和5年度のイベント入込数は87,857人となり、目標値未達成となった。

達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止したこともあり、再開後のイベント入込数が従来の水準まで回復しきっていなかったことが要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	黒石よされについては市教育委員会と協力し、児童・生徒が踊りを継承する体制を強化し、黒石ねふたまつりは団体補助を手厚くすることで参加意欲の向上を図った。
事業の今後について	市民の参加意欲を後押しし、イベント入込数を新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻し、伸長させることが課題となる。

②. 街なか情報発信事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	商店街マップや情報誌、SNS、観光アプリ等で情報を発信し、市民及び観光客の街なかへの関心を高める。また、インバウンド観光客の対応のため、無料 Wi-Fi 設置の促進と、英語圏、主にオーストラリアをターゲットとした誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、基準値 169,764 人の 5%を事業効果として、令和 5 年度において 8,488 人の入込増を見込んでいる。 【最新値】 令和 5 年度は、国際交流員による日英表記での投稿や外国人目線での情報を SNS 等で 81 件の情報を発信したほか、グーグルマップ等への施設情報の英語及び日本語での登録などツールに合わせた情報発信に努めたものの、イベント入込数については目標値には達しなかった。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響で中断したこともあり、再開後のイベント入込数が従来の水準まで回復していなかったことが目標値未達成の要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	国内外から訪れる観光客の利便性向上のため、こみせ通りに Wi-Fi を設置するほか、インバウンド向けに日英表記による情報発信を行っている。
事業の今後について	継続実施することで、日英での情報発信を更に強化し、主にオーストラリアをターゲットとした誘客促進を図る。

③. 黒石よされブラッシュアップ事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	日本三大流し踊りの一つに数えられる黒石よされへの参加者増と知名度アップのため、浴衣の無料貸し出し・着付け、首都圏等で開催されるイ

	ベントへの参加、独自で県外イベントに参加するPR団体に対し、経費の一部を補助することにより、観光誘客の推進と市内外の交流人口の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、基準年の黒石よされ入込数 80,200 人の 5%を事業効果として、令和5年度において 4,010 人の入込増を見込んでいる。 【最新値】 令和5年度は東京都中野区で開催された「なかの東北応援まつり」に黒石よされの踊り子 15 名が上京し参加した。イベント入込数については、目標値に達しなかった。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止したこともあり、再開後のイベント入込数が従来の水準まで回復していなかったことが要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	参加者の高齢化が課題となっており、若年層の参加を促す取り組みが求められる。
事業の今後について	首都圏での知名度向上を図り、青森県まで足を伸ばしてもらおうきっかけとする。中野区だけでなく、各所でのPRに努めるほか、着付けの指導をするなどして、参加意欲のある市民の後押しを継続する。

●今後の対策

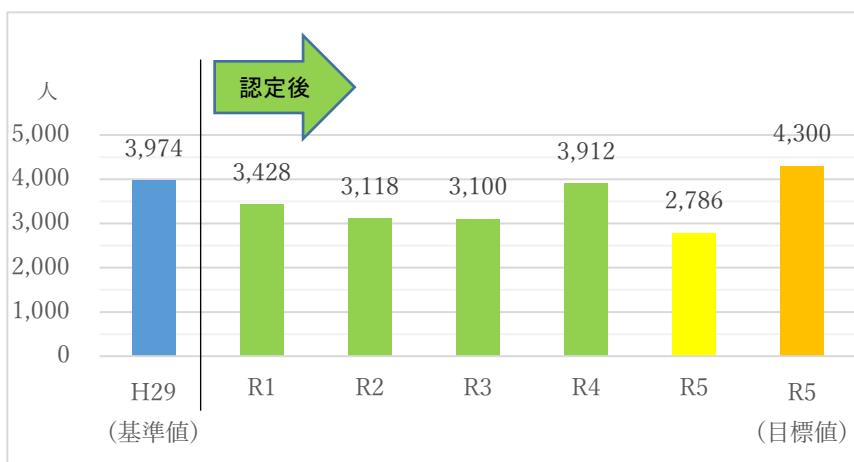
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を中止したこともあり、再開後のイベント入込数が以前の水準まで回復しきっていないことも目標値を達成できなかった要因と考えられる。今後は希望団体への踊りの指導を行うほか、小中学生のうちから黒石よされに親しみ、祭りの継承を図る。また、黒石ねぷたまつりについては、参加団体への補助を厚くし、参加意欲のある市民の後押しを継続する。

また、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努める。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<歩行者通行量（平日・休日の計）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P80～P83 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H29	3,974 (基準年値)
R1	3,428
R2	3,118
R3	3,100
R4	3,912
R5	2,786
R5	4,300 (目標値)

※調査方法：9月の平日及び休日（各1日）それぞれ、8時から17時45分まで目視で実測

※調査月：令和5年9月

※調査主体：黒石市、黒石商工会議所

※調査対象：中心市街地内の6調査地点（調査地点1：一番町【駅前】、調査地点2：上町、調査地点3：一番町【信金前】、調査地点4：横町、調査地点5：中町、調査地点6：市ノ町）における歩行者

※調査地点



(単位：人)

	平成 29 年度 (基準年)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
調査地点 1	1,252	1,080	844	852	670	566
調査地点 2	438	292	268	338	376	284
調査地点 3	442	540	512	294	470	418
調査地点 4	416	372	342	446	354	248
調査地点 5	864	650	760	642	1,628	912
調査地点 6	562	494	392	528	414	370
合計	3,974	3,428	3,118	3,100	3,912	2,798

〈分析内容〉

令和 5 年度の実績は令和 4 年度実績から減少しており、調査を行った日は両日とも多少の雨が降っていたことから、歩行者通行量にも少なからず影響があったものと思われる。

また、指標に掲げる歩行者通行量増加分を収容する「市立図書館整備事業」及び「市民サービス施設整備事業」の拠点施設整備は、「市立図書館整備事業」は令和 4 年度に完了し、年間入館者数が目標の 36,300 人を超えたが、「市民サービス施設整備事業」については、「(仮称)市民サービス施設」の工期延長にともない、令和 6 年度以降に効果が現れると思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立図書館整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【事業完了】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	黒石公民館駐車場に、新たに市立図書館を建設し、様々な世代の憩いの場として活用する。これまで当市になかった図書館を建設することで、図書館を利用する様々な世代の来街者を増やし、回遊を生み出し、にぎわいの創出に寄与するための事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） （令和 2 年度～令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、市立図書館整備後の歩行者通行量が令和 5 年度において 85 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 新築工事が令和 4 年 5 月末に完成し、令和 4 年 7 月にオープンした。事業の効果として、路線バスの利用者が減少したこともあり、歩行者通行量は 58 人/日の増加に留まっているものと推察されるが、開館時間の特別延長や市内学校へ出張説明会など図書館利活用促進事業を行い、年間入館者数が 55,510 人（令和 6 年 3 月末）と目標の 36,300 人を超えた。
達成した（出来なかった）理由	「(仮称)市民サービス施設」の工期が延長されることが目標値未達成の要因の一つと思われる。

計画終了後の状況及び事業効果	図書館利活用促進事業を行ったことで、年間入館者数が目標の 36,300 人を超えるなど一定の効果があった。
事業の今後について	令和 4 年 7 月 1 日にオープンし事業完了した。

②. 市民サービス施設整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	旧大黒デパート建物を解体し、市役所窓口業務等を含む市民サービス関連機能や交流拠点機能などを含む複合施設、広場を整備し、中心市街地の新たな人の流れを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） （令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、市民サービス施設整備後の調査地点 2.3.6 の歩行者通行量が令和 5 年度において 156 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 「(仮称)市民サービス施設」新築工事の進捗率が 76%と完了していないため、歩行者通行量の増加に寄与できていない。
達成した（出来なかった）理由	社会情勢の変化に伴う資材高騰や資材不足等により計画内容や納期の見直しを行い工期の延長を行ったため。
計画終了後の状況及び事業効果	工期の延長に伴い、事業効果が表れるのは令和 6 年度以降になるものと思われる。
事業の今後について	令和 6 年度中のオープンを目指し新築工事を進めていく。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（再掲）（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、中心市街地複合宿泊施設整備後調査地点 2.4 の歩行者通行量が令和 5 年度において 140 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 令和 2 年 3 月に補助事業が完了し、令和 2 年 4 月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、令和 2 年 5 月にプレオープン、令和 2 年 6 月からの本格オープンとなった。令和 5

	年度は年間約 5,000 人が宿泊利用したほか、オープン以降令和 5 年度までに宿泊以外に 18,000 人ほどが同施設を訪れており、事業の効果としては、60 人/日増加したと推察される。 しかし、調査地点 2.4 の歩行者通行量は平成 29 年の 854 人から令和 5 年の 532 人に減少しており、全体としては目標値未達成となっている。
達成した（出来なかった）理由	「(仮称)市民サービス施設」の工期が延長されたことが目標値未達成の要因の一つと思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	施設は、市や商工会議所の事業に活用されているほか、周辺への新規出店も見られており、施設が整備されたことの事業効果が表れている。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信も継続実施することで、来街者の増加と滞在時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。

④. 前町野添線電線共同溝整備事業（黒石市、電線管理者）

事業実施期間	平成 23 年度～令和 2 年度【事業完了】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	本路線は、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている地区内にあり、伝統的な「こみせ」の保存・修景整備とともに、こみせ通りとしての一体的な景観の向上を図る必要のある重要な路線である。 当事業は、縦横に張りめぐらされた電線類を地中化することにより、こみせ通りの観光資源としての価値を高めることで、観光客を増やし、にぎわいを創出させるため必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	令和元年度 社会資本整備総合交付金（道路事業） 令和 2 年度 無電柱化推進計画事業
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、調査地点 5 の歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 認定基本計画に掲載された事業は、令和 2 年度で完了した。 調査地点 5 における歩行者通行量は平成 29 年の 864 人から令和 5 年の 912 人と増加しているものの、全体としては目標値未達成となっている。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が一時減少し、従来水準に戻っていないことや「(仮称)市民サービス施設」の工期が延長されたことが目標値未達成の要因の一つと思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	対象路線が「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されていることから、電線管理者や周辺住民の理解を得ながら実施することで、当事業の目的である景観の向上に努めている。
事業の今後について	令和 6 年度以降、整備済み区間より北側へ 100m 無電中工事を実施予定。

⑤. 街なみ環境整備事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 9 年度【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	「こみせ」などの伝統的な景観の保全・形成並びに、街なかを回遊できる歩行者ネットワーク構築にあたり、道路の美装化、景観の復元を行うなど、歴史的風致の維持・向上を図る整備が必要である。また、ユニバーサルデザインも取り入れ、魅力ある歩行者空間の確保を図るものである。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、調査地点 5 の歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【実績値】 令和 3 年度から令和 5 年度の 3 年間で外観修景助成事業を実施し、補助金を活用した修景件数は個人・事業者あわせて 6 件となった。 調査地点 5 の歩行者通行量は平成 29 年の 864 人から令和 5 年の 912 人と増加しているものの、行者通行量は全体としては目標値未達成となっている。
達成した（出来なかった）理由	「（仮称）市民サービス施設」の工期が延長されたことが目標値未達成の要因の一つと思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間内における「こみせ」再生及び建物の修景件数については目標値としていた 5 件を超える補助金の活用があったものの、一方で現状の景観への愛着心等から、当該事業の活用による修景に躊躇する対象者も少なくない。
事業の今後について	継続実施することで歴史的町並みを守り、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」と併せて賑わいの創出及び活性化につなげる。

⑥. 松の湯交流館管理運営事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度]
事業概要	重要伝統的建造物群保存地区に存在する松の湯交流館をコミュニティ及び観光・まち歩きの拠点として活用することで、中心市街地の賑わいの創出と交流人口の増加を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値	【事業目標値】

及び達成状況	当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、調査地点 5 の歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【実績値】 令和 5 年度は、自主事業を年間 80 回実施し、延べ 434 人の参加となった。感染対策を講じながらの多種多様な自主事業を展開した。 調査地点 5 の歩行者通行量は平成 29 年の 864 人から令和 5 年の 912 人と増加しているものの、歩行者通行量は全体としては目標値未達成となっている。
達成した（出来なかった）理由	「（仮称）市民サービス施設」の工期が延長されたことが目標値未達成の要因の一つと思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	多種多様な事業を展開したことにより参加者も年々増加している。また、観光の拠点として、最新の観光情報をわかりやすく発信している。
事業の今後について	継続実施することで、観光の拠点、交流の拠点として最新の情報をわかりやすく発信し、多種多様な事業を展開することにより、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。

⑦. 回遊バス運行事業（黒石市）

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和 5 年度〕
事業概要	回遊バスを継続して運行し、中心市街地への効率的なバス路線の検討・見直しを図る。また、バス停や待合所の多言語化のほか、店舗の前へバス停を設置するなどの取り組みを行い、中心市街地の商業環境の向上、街なか観光の振興、来街者の利便性の向上、街なか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 当事業では、回遊バスの利便性を高めることで、中心市街地内の回遊性を高め、歩行者通行量の増加を見込んでいる。 【実績値】 新型コロナウイルス感染症以降乗車人数は大幅に減少し、令和 5 年度の乗車人数は 26,020 人となった。 また、歩行者通行量は全体としては目標値未達成となっている。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通機関の利用者が減少したこと、「（仮称）市民サービス施設」の工期が延長されたことが目標値未達成の要因と思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	回遊バスの再編を行い、中心市街地を巡回する交通の見直しを行ったほか、黒石中学校前の待合環境の整備を行うなど、利用者の利便性の向上に努めている。

事業の今後について	引き続き、市民のニーズに合致した利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指す。
-----------	---

●今後の対策

調査費当日の天候のほかに、新型コロナウイルス感染症以降回遊バスの利用者が減少したこと、駅前にある農協の施設が統合により閉店したこと、「(仮称)市民サービス施設」の工期が延長されたこと等も目標値未達成の要因として考えられる。

令和6年度以降は「市民サービス施設整備事業」が完了することで、まちなかの交流拠点が完成し、新たな人の流れが生み出されるものと見込まれることから、引き続き環境を整備し施設の利用促進を図っていく。